

ひとりごと

高 壽 昌 良



この地で生活をするようになって40年余の歳月が流れる。その中で、幸か不幸か、小・中学校のPTAの役員を引き受けて以来、20有余年。自治会始め社会福祉協議会、警察署、税務署等の協力団体役員、あげくに何を血迷ったのか、民生児童委員まで引き受けて毎日をただただ気ぜわしく過ごしている。

そんな忙しい日々の中で、時間をやりくりして、車で「ひとはしり」。気の向くまま、足の向くまま、時間にしばられない、人に気を使わない、気楽な旅に出る。春は新緑を楽しみ、花の便りを求め、また紅葉の季節には一人の時を楽しむ。行先もその時々気分と体調によって変更する。行先は、今のところ東北6県（福島、宮城、山形、岩手、青森、秋田）である。

私は周囲の人から、「何で年中肩肘をはっているんだ」「あいつは、世間の評判では、表面は穏やかそうに見えるが、芯の強い頑固者だ」といわれている。また、役員をいくつもやって、「名誉欲の強い人だ」ともいわれている。世間の人、自分がこの世で一番の賢者？であるがごとく、よくもまあいったもんだと、感心をしたり、腹を立てたりである。

人生わずか50年、それ以上に生き永らえることが出来るならば、残りの人生、地域への恩返しと、今日まで陰で支えてくれた家族へのささやかな気遣いとで、自分の足元をしつかりと照らして余日を楽しく過ごしたい、そんな考えで暮らす毎日である。私自身は、何か役職がほしいとか、目立ちたいとかの野心は一切ない。野心がないからいつでも「青くさい」正論がいえると自負している。

また、特定の^{おもね}人に阿ず、常に公平な物の判断をと心掛けている。それぞれ関係する団体、組織の中にあつて私に対する特定の支持者、ファンがいるわけではないが、公平であることを心掛けているがゆえに組織全体としては認めざるをえない、そんな「雰囲気」が自然と出来上がっていると自負している。

これがまた、周りから見ると、態度が「でかい」「傲慢」と見えるのかも知れなれない。しかし、これらのことをどう見られようと、いわれようと、自分自身が努力をしてきた結果であるから、なんともいたしようがない。

70才に近い男が世間に対して「右顧左眄^{うごさへん}」することなく、趣味の旅を、味な旅を、人生の旅を、そして人と出会う町や村を知る旅を楽しみたい、残された時を大切に過ごしたいと、そんな気持ちますます強くなってくる昨今である。

女性部会恒例 MC語りシリーズ

今回は神奈川県女性部前部会長で小松商事株式会社代表取締役 小松操様を講師にお迎えして「出会いの人生」と言うテーマでお話しを頂きました。

46才まで専業主婦だった小松社長が健康食品と出会い、素晴らしい人々との出逢いがあったこと、それが今日のビジネスとなり素敵な家族が出来たことなど、先日^{高寿}を迎えられたとは思えない若々しさを熱く語って下さいました。

